

## 令和 7 年度企業・各種団体等市政懇談会に係る意見交換

12/15（月） 15:00～ 参加者 55 人（女性 4 名、男性 51 名）

番号	意 見	回 答
①	<p>農業振興について、能代市のネギ産地のように生産者と農協、市が一体となった取組を男鹿市でも進めてほしい。</p> <p>また、脇本地区で進めている基盤整備についても、市として土地改良区と連携し、後押しをお願いしたい。</p>	<p>能代市のネギ産地は、生産者・農協・行政が一体となって取り組んできた先進事例であり、本市としても参考にしていきたいと考えている。産地づくりは失敗の可能性も含めた覚悟が必要であり、関係者が連携して取り組むことが重要である。</p> <p>また、基盤整備については、市としても土地改良区と連携し、これまでも積極的に関与してきた。脇本本村地区は今年度事業採択されており、百川地区についても今後が期待される。今後、公共投資が厳しくなる可能性がある中、関係者の理解と協力を得ながら、粘り強く取り組んでいきたい。</p>
②	<p>クマの出没や物価高などの影響により、男鹿市の観光、とりわけ宿泊客の動向に影響が出ていると宿泊施設からも聞いている。宿泊助成などを通じて誘客を図り、冬季の観光活性化や周辺観光地への波及につなげてほしい。</p>	<p>観光を取り巻く厳しい状況を踏まえ、現在、プレミアム付宿泊助成事業について 12 月議会で議論を行っており、補正予算として関連事業費を計上している。宿泊者 8,000 人分を対象に、1 人あたり上限 5,000 円の助成を行うもので、そのうち 1,500 人分は市民向けとしている。</p> <p>近年、市内では新たな宿泊施設も増えており、今の時期を逃さず対策を講じることで、男鹿の宿泊施設を広く知ってもらう機会とし、冬場の誘客につなげたいと考えている。観光客の増加により、飲食や物産など地域全体への波及効果を期待している。</p> <p>12 月議会で可決され次第、速やかに事業を実施する予定であり、周知への協力もお願いしたい。</p>

番号	意 見	回 答
③	船越地区では、クマの影響により飲食店への影響も大きい。宿泊者向けの助成に加え、飲食店で使えるプレミアム商品券など、飲食事業者を支援する施策も検討してほしい。	プレミアム商品券等については、現在検討中である。国の制度内容がまだ明確になっておらず、詳細が示されたうえで最終的な判断を行う必要があるが、実施する方向で検討を進めている。制度内容が固まり次第、改めてお示ししていきたい。
④	観光プロモーションについて、SNS での情報発信は以前より大きく強化されており、市長自らの発信や拡散も含め、効果的だと感じている。今後も、市公式アカウントとして、より一層情報発信を強化してほしい。	市長による発信は大きな影響力があり、市としても重要な発信力と認識している。市の公式アカウントについても、より効果的な情報発信のあり方を模索しながら、発信の頻度や内容の充実に努めている。今後も、市としての発信力向上に向け、継続して取り組んでいきたい。
⑤	有権者として、議員や当局の活動が見える形になることは、議会の可視化による緊張感や健全な議論につながると考える。議会のライブ配信や YouTube 配信などについて、予算やマンパワーの課題も含め、現在の検討状況と今後の見通しを教えてほしい。	<p>議会のライブ配信については、他自治体よりも早い段階から議会側で繰り返し検討されてきたが、様々なメリット・デメリットを総合的に判断した結果、導入を見送っている状況である。他自治体の事例を確認したところ、導入・運用に多額の費用がかかる一方で、視聴者数や効果については必ずしも十分ではないとの意見を伺っている。</p> <p>また、先行している自治体では、AI を活用して議員発言を可視化し、議会内での議論を市民に分かりやすく伝える手法が採用している例もあり、こうした方法も含め、今後、より良い方向に向けて、当局としても協力していきたいと考えている。</p>

番号	意見	回答
⑥	<p>船川地区の高台で実施している乗合タクシーの実証実験について、途中経過を教えてください。</p>	<p>公共交通の空白地域対策として、船川地区の高台（緑ヶ丘・旭ヶ丘等）から船川中心部への乗合タクシーの実証運行を11月17日から実施している。利用状況は、11月が22件、12月は現時点で27件と多くはなく、引き続き周知に力を入れていきたい。</p> <p>利用者からは運賃の低廉化を求める声もある一方で、次年度以降の本格運行に向けては、事業を継続するために一定の収入確保が必要であり、地域や事業者と相談しながら進めている。まずは船川地区でモデル事業として実施し、今後は他地域への展開も検討していきたい。</p> <p>併せて、男鹿中地区では、地域住民が運行を担う公共ライドシェアの導入の可能性について調査を行っている。課題を整理しながら、次年度以降の取組に向けて検討を重ねていく考えである。</p>
⑦	<p>木下グループのホテルについて、朝食は提供されるが夕食は提供されないと聞いており、その認識で間違いはないか。</p> <p>また、近隣の飲食店が休業している場合、宿泊者の夕食場所が確保できない懸念があるが、市としてどのように考えているのか。</p>	<p>木下グループのホテルは、3月5日にグランドオープン予定と聞いており、朝食はホテル内で提供される一方、夕食の提供は行わない予定である。現在、地域の事業者と連携し、夕食を提供できる仕組みができないか模索している状況である。</p> <p>宿泊者がいても食事を取る場所がないという状況は、新たな商機につながる可能性があるかと捉えており、市としても関心のある事業者への声がけを行っている。市では、商店街の空き店舗を活用した事業を支援する補助制度（上限150万円）を用意し、商工会や金融機関と連携しながら、新たな動きが生まれないか情報収集を行っている。今後も、開業時期に合わせた取組につながるよう後押ししていきたい。</p>

番 号	意 見	回 答
⑧	<p>近年、男鹿ではハタハタをはじめ魚がほとんど水揚げされておらず、漁業者にとって非常に厳しい状況となっている。原因は海水温の変化とも聞いており、三方を海に囲まれた天然の漁場を活かすためにも、国や県と連携しながら、漁業振興に向けた取組を強化してほしい。</p>	<p>魚が獲れない状況は深刻に受け止めており、市としては藻場造成などにより魚が集まりやすい環境づくりに取り組むとともに、漁法の研究など漁業の持続に向けた取組を進めている。海水温の上昇や気象変動の影響については、長期的な自然のサイクルの可能性も指摘されており、要因の特定は容易ではない。</p> <p>仮に温暖化等により従来の魚種が回復しにくい状況であれば、これまでの主力魚種に固執するだけでなく、今後獲れる可能性のある別の魚種への転換や新たな取組も検討していく必要がある。市としては、そうした挑戦に対し、県や国の研究機関とも連携しながら、漁業者の経営を支える取組をしっかりと後押ししていきたい。</p>
⑨	<p>福祉施設の運営は、人材不足や物価高騰の影響により非常に厳しい状況にある。市として補助金等による支援を検討していると聞いているが、今後の支援の考え方について教えてほしい。</p>	<p>物価高騰対策として、12月議会の予算において、食材費・光熱費・衛生費を対象に、福祉・介護施設あわせて約4,500万円の支援予算を計上している。利用料金に物価高を転嫁しにくい施設については、こうした形で支援していきたいと考えている。</p> <p>また、市内の福祉・介護施設が連携する組織を立ち上げており、その枠組みの中で、人材不足に関する情報共有や課題整理を行いながら、関係者とともに課題解決に向けて取り組んでいきたい。</p>

番号	意 見	回 答
⑩	<p>次期総合計画の方向性について説明があったが、表現が抽象的に感じられる。市民所得や人口減少、教育分野について、具体的な数値目標を示した方が、市職員や市民が共通の目標を持って取り組めるのではないか。特に、市民所得の向上、人口規模の維持、学力水準について、数値を伴う目標設定の考え方を教えてほしい。</p>	<p>市民所得については、現状として男鹿市の平均所得は217万円で、秋田県平均(276万円)の約8割にとどまっている。この差を縮めることが重要であり、県の将来推計では令和11年に平均所得が313万円になるとされている中、男鹿市としては288万円程度まで引き上げ、県平均の約9割水準を目指したいと考えている。事業者の協力を得ながら、段階的に差を詰めていくことが現実的な目標である。</p> <p>また、「確かな学力」という表現については、文部科学省が用いている用語であり、単なるテストの点数だけでなく、基礎的・基本的な知識や思考力、判断力、表現力などを総合的に捉えた概念である。今後、計画の具体化に当たっては、数値目標の設定も含め、市民に分かりやすい示し方について検討していきたい。</p>